

第 14 回目

2012 年 9 月 21 日 (金曜日)
18:00 ~ 19:00

元安橋東詰からスタートし本通り、金座街を往復します。毎週金曜に歩きます。

飛び入り歓迎
槍が降ったら中止します

広島 2 人デモ

雨天
決行

http://www.inaco.co.jp/hiroshima_2_demo/

いてもたってもいられなくなった仕事仲間と恥も外聞も捨てて仕事の合間にたった 2 人でも歩く。それが 2 人デモです。黙っていたら社会人としてだけではなく、企業人としても恥。野田首相！あなたは恥を知るノダ！

調査・文責：哲野イサク
チラシ作成：網野沙羅
連絡先：sarah@inaco.co.jp



「原発ゼロ」政策に 経済界猛反発！なぜ！？

野田民主党政権は 8 月 14 日「革新的エネルギー・環境戦略」をまとめ、「2030 年代の原発ゼロ」を目指すとししました。この政策自体、裏付けの乏しい実現性のない政策で、明らかに民主党の次期総選挙対策ですが、経済界はこの政策にすら猛反発しました。「将来の原発ゼロ」ですら関西電力の経営危機、そして関電に大きな投融資をしている日本の経済界中枢企業（三菱、三井、住友、旧野村系など旧戦前財閥系企業グループ）が大きな傷手をこうむるからです。9 月 18 日経団連の米倉弘昌会長（住友化学会長）、経済同友会の長谷川閑史代表幹事（武田薬品工業社長 - 今後は武田の製品は買うべきではありません）、日本商工会議所の岡村正会頭（東芝会長 - 東芝は旧三井財閥の流れを汲む原発産業の雄。今後東芝製品を買うべきではありません）の 3 名は共同記者会見を開いて、「雇用、国民生活を守る立場から原発ゼロに反対してきたが、遺憾だ」（米倉氏）、「最先端技術で安全かつ効率的な原発開発に貢献することこそ、日本の国際的な役割」（長谷川氏）、「日本商工会議所の世論調査では原発ゼロの賛成は 10%。みんな企業で糧を得て生活している」（岡村氏）などと述べ、激しく「原発ゼロ」政策を批判しました。

関電 - 黙っていたら “YES” と同じ 大飯原発再稼働を止めましょう 事故を起こさなくとも 危険な関電原発 「原発ゼロ」政策に 経済界猛反発！なぜ？

それを言うなら福島事故被害の全責任を取った上、
放出放射能を全て回収してからモノを言うべきです。

また関西経済連合会の森詳介会長（関電会長）も 18 日の記者会見で「（原発ゼロの）政策変更で産業の衰退を招き、電気料金の高騰でコスト競争力が損なわれ、企業の海外移転が加速する」と述べました。みんな一般国民の健康や原発事故の恐れよりも、企業（それは主として旧財閥系の企業グループです）の利益を優先しろ、という主張です。

国民の健康よりも利益を優先する企業なら、どうぞ日本から出て行ってくれ、と言いたところ。

こうした国内経済界の反発やアメリカ、フランスの経済支配層の反発を受けて野田政権は 19 日「革新的エネルギー・環境戦略」の閣議決定を見送りました。閣議決定をすると次の政権を拘束するからです。「原発ゼロ」政策に対する経済界の強い反発の裏には、単に日本国内の問題だけではなく、アメリカの経済支配層（国際的金融資本が中核）の「原発をやめさせるな」という強い圧力が働いているようです。

参照資料：朝日新聞 2012 年 9 月 19 日付大阪本社版、戦略国際問題研究所 (CSIS) 2012 年 8 月論文「日米同盟」(いわゆるアーミテージ論文)

事故を起こさなくとも 危険な関電原発

原発は危険です。特に関電の 3 原発は事故を起こさなくとも危険な原発です。2001 年から 2010 年の間に、ヒトの身体を構成する重要な高分子を容易に破壊する放射性トリチウム（半減期 12 年）を 1486 テラベクレルも液体の形で若狭湾に流しました。また 2010 年度 1 年間で 9100 億ベクレルの希ガス（クリプトン 85 やキセノン 133 など）を放出した他、危険なヨウ素 131 を 40 万ベクレルも放出しています。また裏面のトラブル一覧表を見ておわかりのように原発は、その技術構造的欠陥（放射能フリーで運転できない、放射線廃棄物の処分技術が全く未開発など）の他、老朽化に伴う機器の劣化、製造時のミス、保守点検時のミス、運転ミス、それらが複合した要因など、地震や津波がなくても、いつ苛酷事故が起きてもおかしくない状況です。またこれだけトラブルが起きていて、放出放射能が公表数字通りのはずがありません。

さらに現在再稼働中の大飯原発 3・4 号機はかつて断層ズレがあったことを示す断層破碎帯群の真上にあります。大規模地震があればひとたまりもありません。未完成な技術、人のミス、老朽化した機器や部品、地震、津波。苛酷事故はこうした要因が複合して起こります。苛酷事故は常に「想定内」です。（裏面参照）

事故を起こさなくても危険な関電原発

これだけトラブルがあって
放射能が出ていないわけがありません。

老朽化する関西電力の原発

原発名	番号	定格出力	運転開始時期	経過年数	累計トラブル
美浜原発	1号機	34万kW	1970年11月28日	43年	25件
	2号機	50万kW	1972年7月25日	42年	25件
	3号機	82.6万kW	1976年12月1日	38年	25件
高浜原発	1号機	82.6万kW	1974年11月14日	40年	30件
	2号機	82.6万kW	1975年11月14日	39年	28件
	3号機	87万kW	1985年1月17日	28年	10件
	4号機	87万kW	1985年6月5日	28年	10件
大飯原発	1号機	117.5万kW	1979年3月27日	35年	38件
	2号機	117.5万kW	1979年12月5日	35年	31件
	3号機	118万kW	1991年12月18日	22年	2件
	4号機	118万kW	1993年2月2日	20年	1件

※経過年数は運転開始年を初年とし2012年までの暦年経過年数
※累計トラブル件数は関電の事実上自己申告による。実際はこれよりはるかに多いと考えられる。

関電3原発 放射性トリチウム(液体)放出量

単位：テラ(兆)ベクレル(Bq)

年	美浜原発	高浜原発	大飯原発
2001	17	53	130
2002	18	63	64
2003	23	59	90
2004	16	63	98
2005	15	69	66
2006	14	68	77
2007	20	60	89
2008	18	40	74
2009	23	43	81
2010	13	65	56
合計	177	583	825
総合計	1486テラ(兆)Bq		

関電3原発が1年間で放出した 希ガス性放射性物質

(2010年4月～2011年3月)

	希ガス	ヨウ素 131
美浜原発	実績値	38億Bq
	管理値	2100兆Bq
高浜原発	実績値	96億Bq
	管理値	3300兆Bq
大飯原発	実績値	9000億Bq
	管理値	4000兆Bq

※希ガスの明示はないが、クリプトン85、キセノン133が主体と考えられる。
※管理値は規制当局が認めた放出上限値。その数字の高さに驚かされる。

※資料出典は「原子力施設運転管理年報」平成23年度版

関西電力近年トラブル一覧表(2003年4月～2011年3月)

トラブル機	発生時期	トラブルの概要
高浜4号機	2003年5月	定期検査中2本の伝熱管の高温側(一次冷却材側)のつなぎに欠損。伝熱管内の応力腐食割れ。
美浜2号機	2003年11月	調整運転中ベントライン閉止栓から放射性物質の漏洩、運転停止。Oリングの腐食など複合原因。
大飯1号機	2003年12月	通常運転中格納容器水位上昇率が異常に増加。運転停止。補給水が異常に増加しポンプ洩れが原因。
美浜3号機	2004年1月	定期検査中蒸気発生伝熱管計311本に異常。伝熱管内の減肉が原因。
大飯3号機	2004年5月	定期検査中原子炉容器ふた管台(全部で70箇所)の1箇所に白い付着物を発見。1次冷却水に含まれるホウ酸であることを確認(当然放射能汚染されている)
大飯1号機	2004年6月	定期検査中燃料取替用水タンクの変形を発見。操作ミスのためタンク内が減圧し凹んだもの。
大飯1号機	2004年7月	定期検査中燃料取替用水タンクの溶接部分から水が漏洩。応力腐食割れが原因。
美浜3号機	2004年8月	通常運転中火災報知器が発報、続いて蒸気流量不一致警報が発報、直ちに緊急停止。協力会社作業員11名が火傷、うち5名が死亡。タービン建て屋2階の復水(要するに蒸気)配管の漏洩。(関電、三菱重工日本アーム管理不良とされたが、いまだに事故原因の本格的調査はなされていない。)
美浜4号機	2004年9月	定期検査中蒸気発生器伝熱管計292本に異常。過去に発生した摩耗減肉(要するに経年劣化)が原因。
美浜1号機	2004年10月	点検停止中タービン動補給給水配管の一部の肉厚が規定に達していないことを発見。建設時の施工ミス。
美浜1号機	2005年3月	通常運転中B-充填ポンプの使用ボルト3本に欠損を発見。数日後別ボルト1本に欠損。保守点検ミス。
美浜1号機	2005年4月	定期検査中補助建屋排気筒底部のドレイン配管2本が外れているのを発見。応力疲労割れが原因。
美浜1号機	2005年9月	調整運転中別系統補修検査を実施していたところ、1次冷却水(要するに水)の水位低警報が発報。原子炉を手動停止。1次冷却材用ポンプのパネ部品が劣化のために水が漏洩していたことが原因。
高浜3号機	2006年8月	定期点検中「B-蒸気発生器水位異常低」警報が発報、原子炉が自動停止。主給水の流量が急速に低下。
大飯2号機	2007年9月	通常運転中1次冷却材封水注入フィルター付近から水が漏洩。フランジの締め付け不足。保守ミス。
美浜2号機	2007年9月	定期点検中蒸気発生器1次冷却材出入口管台溶接部に傷を確認。製作ミス。
高浜2号機	2007年10月	定期検査中炉内制御棒の位置にずれ。制御棒駆動装置の機能異常。定期検査中の作業ミス。
大飯2号機	2007年11月	定期検査中2次配管系の主給水配管の1本の肉厚が一部規定以下であることを発見。流水による加速型腐食。
高浜2号機	2007年12月	定期検査中蒸気発生器1次冷却材出入口管台溶接部に傷を発見。取替用蒸気発生器製作ミス。
高浜3号機	2008年2月	定期検査中蒸気発生器1次冷却材出入口管台溶接部に傷を発見。取替用蒸気発生器製作ミス。
大飯2号機	2008年3月	通常運転中試験で4本制御棒グループのうち1本が他3本と整合性が取れていないことを発見。このため出力を75%に下げた。1次冷却中のクラッド(要するに冷却材中に生ずる放射性物質)が、制御棒動作不良を招いた。
大飯3号機	2008年5月	定期検査中原子炉容器出入口管台溶接部に傷を発見。原子炉容器の製作時のミス。
高浜4号機	2008年9月	定期検査中、C-蒸気発生器伝熱管のうち1本に傷を発見。蒸気発生器の製作時のミス。
高浜4号機	2008年10月	定期検査中、蒸気発生器1次冷却材出入口管台溶接部に全3台で傷を発見。製作時のミス。
美浜1号機	2009年11月	調整運転中発電機出力が急激に上昇。発電を停止。発電機負荷リミッターに異物混入が原因。(何も調べたことにならない。なぜ異物が入ったか)
高浜4号機	2010年3月	定期検査中、C-蒸気発生器伝熱管のうち1本に異常を発見。製作時のミスと応力腐食の複合原因。
美浜2号機	2010年3月	通常運転中格納容器内再生熱交換器室に水が滴下しているのを発見。原子炉を停止。該当箇所溶接部に長さ3cmの傷。疲労による亀裂。

※()内記述は調査者による補足説明である。

※トラブル報告は事実上自己申告であり、これ以外にもトラブルありと考えられる。

※資料出典は「原子力施設運転管理年報」平成17年度版から平成23年度版及び

経産省原子力安全・保安院 プレスリリース 2003年5月22日

経産省原子力安全・保安院 プレスリリース 2004年1月23日

※日本アームは現日本ネットワークサポート。関電の子会社。事故の翌年改組。それまで電力事業所の検査事業を担当していた。

※平成23年度版は東電福島原発事故を含んだ報告であり、他会社のトラブルがすべて掲載されているとは思えない。

大飯3号機は現在運転中

大手マスコミが報じない資料 地震の巣の上の 大飯原発

出典：原子力安全・保安院「地震・津波に関する意見聴取会」第19回平成24年7月17日配布資料
「地震・津波19-4」P7
「大飯発電所地質水準断面図(EL+3m)」図をトレース処理

http://www.nisa.meti.go.jp/shingikai/800/26/019/240717.html

注)9月に入って、一部週刊雑誌がようやく取り上げ始めました。

